

地方創生事業好事例紹介

じゃぱにうむ

じゃぱにうむレビュー 第13回

「ハイブリッド営業」で新たな価値の提供に挑む Creative Challenger 大平印刷株式会社

大平印刷株式会社

所在地：京都府京都市伏見区舞台町1番地

代表者：代表取締役社長 水野 整

従業員数：99名（2023年4月現在）

URL：https://www.taihei.co.jp/

ワンストップで「都市農業」の 情報発信をサポート

「都市農業」という言葉を聞いたことはあるだろうか？市街地及びその周辺で営まれている農業を指す言葉だ。地方で営まれている農業に比べると作付面積は小さいが、消費地に近いため、新鮮な農作物をタイムリーに供給できるというメリットがある。都市農業は、このようないわゆる「地産地消」を実現するだけでなく、防災や環境保護といった観点からも、また、農業体験、食育といった農業とのふれ合いの創出など、様々な機能・役割を果たす場としてその価値が見直されている。

京都市農業協同組合（JA 京都市）は、これまでもマルシェや高度な栽培技術の継承を目的とした農産物品評会、幼稚園・小学生向け収穫体験、小学校での食育授業といったイベントを開催してきた。それでも京都の街から農地、農家が減っていつている。JA 京都市は、このような状況に対して、「生産者をはじめとする京都の農業に貢献するための情報発信ができないか」という課題を抱えていた。

この課題に対して、生産者や地域の住民、企業や団体などがそれぞれの立場から共通の価値観を形成できれば、との思いから広報誌と Web オウンドメディアを提案したのが、京都市に本社を置く大平印刷株式会社だ。

その広報誌と Web オウンドメディアに与えられたネーミングは「Link」。この「Link」には、生産者と消

費者とを「リンク」させるきめ細やかな情報が並んでいる。

京都市では、毎年北野天満宮での「夏季農産物品評会」や平安神宮での「秋季農産物品評会」のほか、数多くの「農産物品評会」が開催される。この品評会は、生産技術や品質の向上とその継承を狙いとし、生産者が丹精込めて作った地産の野菜の PR の機会創出も担っている。そんなイベントの情報を、生産者の思いとともに丁寧に取材し掲載することで、生産者と消費者を直接的に Link（リンク）させている。

また、「振り売り」は、京都で平安時代にはじまった行商のスタイルで、ざるや桶を天秤棒にぶら下げて歩いた様子がその語源とされている。現在では軽トラなどに京野菜を積んで売り歩く農家が数十軒となったが、京都の地産地消を支えてきた「振り売り」に着目し、生産者と消費者との「つながり」にスポットライトをあて京都ならではの「都市農業」を訴求している。

実は、この「Link」は、広報誌と Web それぞれの情報伝達力を活かすべく、コンテンツの企画・設計から現地での取材、カメラ撮影、誌面と Web 画面の編



広報誌「Link」



集・デザインなど全てを、大平印刷がワンストップでサポートしているという。この取り組みは、まさに代表取締役社長水野 整氏が2020年からの第11次中期経営計画で掲げてきたデジタルと印刷を共に進める「ハイブリッド営業」の実践と言えよう。

「ハイブリッド営業」で 取り組む地域経済活性化

京都でお茶と言えば宇治茶。この宇治茶のPRを目的とし「お茶する生活」の普及、協力店舗の拡大を狙いとして以前からアナログで行われていたスタンプラリーを、デジタル化できないか？宇治茶の郷づくり協議会から課されたこの課題に対して、「ハイブリッド営業」を展開する大平印刷は、すぐさま、これまで全て手作業で行われていたデータ集計のコスト削減も含め、スマホを使って簡単にできるデジタルスタンプラリーを提案。対象の宇治茶カフェ認定店を巡るとWeb上でスタンプを集めることができる仕組みと合わせ、データの集計レポートは毎週大平印刷より同協議会へ送付することで、先方での作業量の大幅カットに貢献し、大変な好評を博したという。



宇治茶カフェ スマホスタンプラリー

京都には観光スポットが多々あるが、二条城もその代表格のひとつである。そんな二条城の観光支援にも大平印刷が一役かっている。視覚障がい者でも二条城観光が楽しみ、理解できるツールとして作成した触地図+音声タッチペンガイドブックがそれだ。触地図とは、線や図形を盛り上げて印刷されており、手触りの違いから直感的に把握できる地図のことで、点字と組み合わせることに

より、必要な情報を得ることができる。さらに音声タッチペンで地図にタッチすると、歴史的背景など詳しい解説が聞ける機能も付加した。「二条城全体図と二の丸御殿拡大図があってわかりやすい」「二条城の歴史的価値などが理解できた」「音声タッチペンは繰り返し聞いて使いやすい」「触地図が他の施設にも広がれば」などの声があり、全国に先駆けてユニバーサルツーリズム（年齢や障がいの有無に拘わらず、誰もが参加できる旅行）の後押しができるといった評価を受けているという。これも「ハイブリッド営業」のなせる業のひとつではないだろうか。



「二条城」触地図+音声タッチペンガイドブック

更には、大平印刷では、自社で3つのオウンドメディアを運営しているが、そのひとつ「デジスタイル京都」が面白い。京都のイベント情報を掲載する「京イベント」のページには、京都市内全域の、お祭り・お茶会からはじまる60ものカテゴリーのイベントについて詳細な記事が掲載されており、地域経済の活性化に大いに貢献している。

水野社長は、「お客様の課題は、日々変化します。我々はその変化の兆しに、逃げずに挑み、新たな価値を提供できるように、努力を重ねてまいります。」と述べている。これからも大平印刷の取り組みから目が離せない。